

企業ロゴ検討全史 & CI/VIコンセプトマスターブック

～空間を支配し、人の流れを最適化する。埼玉大学発人流DXベンチャーのブランド構築記録 & AIディレクション指針～



【正式採用決定案】C-1 繊細・高なじみチューニング

2026年10月 正式確定

Soft Brackets（空間フォーカス） × Stream Flow（単線整流） × Equilibrium（最適均衡点）
埼玉大学・間邊研究室のコア特許（屋内2.5次元測位 & ナッジ行動変容）を幾何学的に純化。枠線を波に対して約74%に繊細化したスイス・グラフィックスタイルの黄金プロポーション。

Space Midnight Navy (#0A192F)

Nudge Turquoise Blue (#00B4D8)

Pure White (#FFFFFF)

1. 事業の存在意義と解決する3大社会課題

Core Mission & Problem

① 観光オーバーツーリズム

特定スポットや路地への過密滞留による地域疲弊。従来の屋外GPSでは屋内外の細街路動態が把握できず、行動誘導が不能。

② 災害時の避難所過密・混乱

避難所のリアルタイム滞在人数の把握遅れ。物資配分の偏りや収容限界超過の発生。垂直方向（階層）を含む屋内測位が不可欠。

③ 施設・空港・警備の過負荷

警備員・現場スタッフの人手不足。フロア・階層別の滞留予測ができないため、人員配置の最適化や事前誘導が後手に回る。

◆ まちリズムの本質（事業のコアメッセージ）：

人の活動の約9割は「屋内・半屋内」で行われますが、GPSは屋内で機能しません。当社は「GPSが届かない空間」に高精度なセンシングフィールド（画角）を立ち上げ、空間キャパシティに対する最適均衡をもたらす事業を展開します。

2. 最新業界動向とポジショニング（unerry連合との対比）

Market Context & Positioning

比較項目	unerry × ブログウォッチャー連合（2026年5月統合）	株式会社まちリズム（埼玉大学発ベンチャー）
センシング領域	屋外マクロ（GPS） & 店舗レジ前（ビーコン点検知） スマホアプリ許諾・Bluetooth依存のサンプル標本。	屋内・施設内2.5次元空間（平面 x,y + 階層 z） 垂直精度3m以内（特許）。Wi-Fi/AIカメラ等で母集団捕捉。
機能・目的	事後統計可視化 & 購買広告マーケティング 「先月どこが混んだか」のダッシュボード表示、購買計測。	リアルタイム予測 & ナッジによるピークシフト 行動経済学により「今起きている混雑を自発的に分散誘導」。
事業ドメイン	民間商業リテール・消費財広告（レッドオーシャン）	公共防災・観光オーバーツーリズム・警備DX（空間インフラ）

ロゴデザイン検討の全変遷と意思決定の軌跡

～「M字モチーフ」の脱却から「空間フォーカス」、そして「スイス・スタイルなじみチューニング」へ～

フェーズ1：初期「M字モチーフ」の模索と脱却

Phase 1: Beyond "M" Motif

初期案1：整流メビウスM

人の流れの循環とM字をメビウスの輪で統合。幾何学的な安定感。

初期案2：人流パルスM

脈打つ人流とデジタル波形をM字のラインで表現したスピード感。

初期案3：空間メッシュM

多層レイヤーと空間グリッドを組み合わせた建築的アプローチ。

◆ ユーザーの決定打となったフィードバック（転換点）：

「Mにこだわるのをやめてもよいですが、できるだけシンプルな構造は追求したいですね。事業の本質でいうと、『**室内の混雑把握**』『**オーバーツーリズム解消**』『**避難所の人数最適化**』といった【空間を支配できる点】が重要です。案3は線が複雑。案1・2は四角形が堅すぎる感じがしました。」

フェーズ2：4つの空間アプローチ展開（A～D）

Phase 2: 4 Spatial Concepts

アプローチA：均衡ノード	アプローチB：階層レイヤー	アプローチC：Soft Brackets ★	アプローチD：ナッジ軌跡
空間内の中心点と放射グリッドで最適均衡を表現。極めてミニマル。	2.5次元の階層（高低差）を立体スライスで表現。測位の深さを象徴。	四隅の角丸スコープで空間の切り取り・センシング画角を表現。	混雑の山（ピーク）が穏やかなステップへ遷移する動線カーブを表現。

◆ ユーザーの共感：「【アプローチC】Soft Brackets（空間フォーカス・センシング画角）がもっとも印象が近いです。対象のまちや地域にカメラでフォーカスしている意味合いも感じられます。」

フェーズ3：アプローチCの深掘りと「C-1案」の採用

Phase 3: Deepening C & C-1 Selection

【採用決定】C-1案：Soft Brackets × 単線整流波 × 均衡ドット

四隅の角丸ブラケット枠が「空間画角」を規定し、中央の1本の流線が人流の整流化を、ターコイズの円が2.5次元最適均衡点を表現。
ユーザー判断：「ストーリー的にもデザインのバランス的にも【C-1案】ですね。あとは四隅のスコープが名刺やWebサイトに載った際になじむかですね。」

【比較検討】C-4案：ナッジ・ステップ整流

中央の波形を階段状（ステップ型）にし、過密から分散への遷移をより具象的に描いたバリエーション。最終的にC-1の幾何学的シンプルさが勝利。

フェーズ4：名刺・Web実環境なじみ検証と最終確定

Phase 4: Delicate Tuning

① 標準バランス（初期）	② 繊細・高なじみ案（採用決定案★）	③ ショートアーム案
線幅：11px 腕：36px 枠と波が同等の太さでやや枠が主張。	線幅：8.5px 腕：31px（スイス・グラフィックスタイル） 枠を細くし波とドットを主役に。名刺白地・Web UIに完璧に溶け込む。	線幅：10px 腕：22px 十字ポイントに近く、カメラ感が強すぎる。

◆ ユーザーの最終決定：「ロゴのなじみは『②【繊細・高なじみ案】★』が良いね」 → 全マスターデータへ完全同期決定！

決定ロゴ「C-1 繊細チューニング」の造形仕様書

～三位一体の幾何学設計 (Soft Brackets × Stream Flow × Equilibrium) ～

1. 3大造形要素のデザイン哲学

Symbol Philosophy

① Soft Brackets []

(空間フォーカス・センシング画角)

人の活動の9割を占める屋内空間・避難所・観光地に対し、センサーが「高精度なセンシングエリアを立ち上げる」ことを象徴。完全な四角形で閉じないことで、「まちの風通しの良さ」と自由な人の出入りを表現。

② Stream Flow Wave ～～

(単線整流・歩行リズム)

空間内の過密な人の流れを、行動経済学(ナッジ)と埼玉大学発アルゴリズムによって、「淀みのない心地よいリズムへと整流化(ピークシフト)」する状態を1本の美しい曲線で表現。

③ Equilibrium Dot ●

(最適均衡点・2.5次元ノード)

平面だけでなく階層(高さ)まで捉える「屋内2.5次元測位の高精度ピンポイント(垂直精度3m以内)」と、過密でも過疎でもない「空間における最適均衡点」を象徴。

2. ベクター幾何学とプロポーション仕様

Geometric Blueprint

■ 線幅と主従関係 (視覚的ヒエラルキー)

構成要素	数値仕様 (横組み/縦組み)	設計意図
波 (Stream Wave)	stroke-width: 11.5px	主役として堂々と視線を引きつける太さ
枠 (Soft Brackets)	stroke-width: 8.5px	波の約74%に繊細化し、背景に溶け込む画角に徹する
ドット (Equilibrium)	radius: 17px	波の振幅中心にジャスト配置するアイキャッチ
角丸アール (Radius)	A 24, 24 (R=24)	堅牢すぎず柔らかい空間の広がり担保

■ タイポグラフィ (和文・欧文ワードマーク)

株式会社まちリズム

Machirhythm Inc.

- 和文社名: 角ゴシックをベースに文字間をゆったりとトラッキング (letter-spacing: 3～4px)。「まち」の親しみやすさと「リズム」の先進性を両立。
- 欧文社名: 視認性の高いヒューマニスト・サンセリフ (Segoe UI / Helvetica Neue)。セミボールドでアカデミックな知性を演出。

3. コーポレートカラー規定

Color System

カラー名称	HEX	RGB / CMYK	象徴する意味・ブランド価値
Space Midnight Navy	#0A192F	R:10 G:25 B:47 C:100 M:75 Y:45 K:60	埼玉大学発の学術的知性・空間の奥行き・堅牢な信頼性。メインシンボルおよび文字色。
Nudge Turquoise Blue	#00B4D8	R:0 G:180 B:216 C:75 M:5 Y:5 K:0	最適化された人の流れ・高精度位置特定ノード・行動経済学の先進性。最適均衡ドットの色。
Pure White	#FFFFFF	R:255 G:255 B:255 C:0 M:0 Y:0 K:0	空間の風通しの良さ・クリアな知見・名刺やUIにおけるホワイトスペース。

実環境シミュレーション & ブランド展開実績

～名刺・Web UI・自治体特定創業支援・パートナー提携資料への全実装～

1. 名刺実寸シミュレーション（91mm × 55mm）

Business Card Context

【表面】白地・横型：端正なアカデミック・テック

四隅の繊細なブラケットが名刺の白い余白（ホワイトスペース）とシームレスに呼吸。「閉じた箱」ではないため、名刺用紙の四角い角と干渉せず、まるでファインダーのような知的なアクセントとして溶け込みます。

【裏面】濃紺ベタ：プレミアム・エグゼクティブ

ミッドナイトネイビーの背景に、白のブラケットとターコイズドットがアイコニックに際立ちます。名刺交換時のアイスブレイク（「この四隅の枠は空間の画角です」）に直結。

2. Webサイト & アプリUI（極小16px～ヘッダー72px）

Digital & Web Context

Webヘッダー（高さ72px前後）

ブラケットの線幅を8.5pxにチューニングしたことで、Webヘッダーに小さく配置しても枠が重たくならず、シャープで軽快なモダンUIと完全に調和します。

ファビコン & アプリアイコン（16px / 32px）

極小サイズに縮小しても、中央のターコイズドットが強いアイキャッチとなり、四隅のブラケットが外枠の認識を補助するため、ブラウザタブでも即座に判別可能です。

3. すでに展開済みの公式ドキュメント一覧

Deployed Official Documents

展開ドキュメント	提出・対象先	本ロゴの機能と効果
特定創業支援事業計画サマリー (A4・2枚完結)	さいたま市・産業創造財団 日本政策金融公庫	ヘッダーに配置。大学発ベンチャーとしての高い公的信用と、知財に裏打ちされた事業性を演出。出資比率等のガバナンスと調和。
Ling協業フォーメーション資料 (A4横・1枚完結)	株式会社Ling 役員会 経営陣・人事部門	まちリズム（Tech）とLing（Ops/BizCats）の「共通クライアントへの共同アプローチ（直契約）」図解において、中核ブランドとして君臨。
埼玉大学称号申請添付資料 (A4・複数ページ)	国立大学法人埼玉大学 産学連携・称号認定委員会	定款案・組織図とともに「公式VI仕様」として収録。大学発ベンチャー認定基準における信用担保に貢献。

他AIエージェント向けディレクション & 壁打ちガイド

～Claude / ChatGPT / Gemini 等の外部AIに本PDFを読み込ませ、コンセプトを極限まで磨くためのプロンプト～

◆ 外部AIエージェントを活用する目的：

本PDFには、株式会社まちリズムの企業理念・技術シーズ・これまでの試行錯誤がすべて凝縮されています。この資料を別のAIに読み込ませることで、「客観的な第三者視点でのクリティカルな批評」「類似商標リスクの検証」「モーションロゴやUIシステムへの拡張アイデア」を効率的に引き出し、ブランドを次の次元へ昇華させます。

1. そのまま使えるAI壁打ちプロンプト (Copy & Paste)

Master Prompt

【前提共有】

添付のPDFは、埼玉大学発ベンチャー「株式会社まちリズム」の企業ロゴ (CI/VI) に関する検討全史およびコンセプトマスターブックです。当社は「GPSが届かない屋内空間 (人の活動の9割)」に特化し、屋内2.5次元測位 (垂直精度3m以内) と行動経済学 (ナッジ) による混雑ピークシフト誘導プラットフォームを提供します。検討プロセスを経て、シンボルマークは【Soft Brackets (空間フォーカス画角) × Stream Flow (単線整流) × Equilibrium (最適均衡点)】に正式決定しました。

【あなたの役割】

世界トップクラスのブランドアーキテクト兼CI/VIアートディレクターとして、このロゴコンセプトおよび造形を極限まで磨き上げるための「客観的批評」および「発展的提案」を行ってください。

【検討・回答してほしい5つのアジェンダ】

- 【認知心理学・記号論的批評】：
初見のステークホルダー (自治体首長、投資家、一般ユーザー) が見た際、この造形が直感的にどう解釈されるか？「監視カメラのファインダー」に見えずぎてプライバシー不安を煽るリスクはないか？それを払拭するポジティブなストーリーテリングの強化案はあるか？
- 【タイポグラフィの極限調整】：
「株式会社まちリズム / Machirhythm Inc.」の和文・欧文ワードマークについて、シンボルの繊細な線幅 (8.5px/11.5px) と調和させるための最適なフォント選定、文字間 (カーニング)、太さのバランスについてプロの助言をください。
- 【モーションロゴ (動的ストーリー) の定義】：
Webサイトのオープニングや動画PRでこのロゴがアニメーションする際、どのような動き (時間軸のシークエンス) で登場させるのが事業思想 (空間支配・ナッジ・最適均衡) を最も美しく表現できるか？
- 【プロダクトUI・空間HUDへのデザインシステム展開】：
四隅のブラケット「[]」を、ソフトウェアの管理画面、人流ダッシュボード、ARグラス等の「動的フレーム (UIコンポーネント)」として展開するデザインシステムのルール案を提案してください。
- 【サブブランド展開ルール】：
将来「まちリズム for 防災」「まちリズム for 観光」「まちリズム for 警備」等のバーティカル展開を行う場合、このロゴをベースにどう色やエレメントを派生させるべきか？

2. AIエージェントに評価させるべき「5つの判定基準」

5 Evaluation Criteria

① 記号性と視認性 (Scalability)

16px極小ファビコンから巨大サインボードまで、線が潰れず一貫した識別性を保っているか。

② 概念適合性 (Concept Alignment)

「空間支配」「2.5次元」「ナッジ整流」という複雑な先端科学が、過不足なくミニマルに表現されているか。

③ 競合優位性 (Differentiation)

unerry等の「ビッグデータ・統計グラフ型」の記号と一線を画し、「空間最適化」の独自性を主張できているか。

④ 動的拡張性 (Dynamic Extension)

静止画にとどまらず、UI・モーション・プロダクト内部のグラフィック言語として発展できるか。